

平成30年度 呉市復興計画検討委員会 第2回会議摘録

1 日 時 平成30年11月28日（水）13時～15時15分

2 場 所 呉市役所本庁舎 757～758会議室

3 概要・骨子

13:00

【市長挨拶】

呉市長の新原でございます。

今日は、貴重なお時間を割いて、委員、参考人にご出席いただきありがとうございます。

私も安浦の現地視察に同行しましたが、委員におかれましては、午前中に天応と安浦の被災地の現地を視察いただき、ありがとうございました。現地の状況などを踏まえたご議論をいただければと思います。

さて、今の復旧、復興に向けた取組でございますが、まず、道路や河川などについては、県や国を中心に現在復旧がかなり進んでいるところや、これから査定を受けて設計などを行い、取りかかるところもありますが、順調に進んでいるところでございます。

砂防堰堤については、国土交通省や広島県において、工事实施に向けた地元説明会等が順次開催され、市の職員も同席して内容を聞くとともに必要な説明を行っております。呉市においても市道等の本格的な復旧工事をこれから始めるという段階に進みつつあります。

また、損壊家屋の解体・撤去については、発注に当たり細かい地区割りを設定するなど工夫し、できるだけ早く進むように考えており、基本的には年度内に終了する見込みですが、相続等で個別の事情のある場合はもう少し時間がかかる見込みでございます。

また、健康相談や孤立防止などについては、天応、安浦地区に設置した「地域支え合いセンター」を中心に被災者に寄り添った支援を実施しております。

また、中小企業事業者向けグループ補助金の申請や発災による落ち込んだ消費の回復や減少した観光客を呼び戻す取組として、商店街の賑わい創出、地域イベントの開催など、民間事業者や地域の団体の皆様の主体的な活動を国や県と一緒に支援させていただいているところでございます。

今年度末を目標に災害からの復旧、復興に向けた計画を策定するにあたり、どうか市民の皆様本当に必要とされる計画としていきたいと考えておりますので、皆様のご議論に期待しております。計画の策定過程では市民の皆様の意見をお聴きすることもありますので、それも含めて委員の皆様のご審議をよろしくお願ひしたいと思ひます。

13:05

【議題1】

「現地視察に対する意見交換会」

委員からの主な意見は次のとおり

- 災害の凄まじさ、酷さを改めて実感した。段階的ではあるが今後備える砂防ダムなど強靱化に期待している。
- 被害を受けた家の解体に向けて、個別の事情があると思うが行政との意思疎通が重要である。今後、人が出て行くことを心配している。天応は西日がきれいの良い所な

ので、いかに定着してもらえるか、地区の代表や若い人も入れて、行政と地域のリーダーが後押しして、地域の自主的な活動が活発になることを期待したい。

- 災害には自助・共助・公助という考え方がある。公助については、国、県、市が十分に対応してもらっている。自治会連合会では、自助と共助の部分の仕組みをいかに考えていくかとして、防災意識向上小委員会を設置し、防災に対する意識を向上することや防災無線が聞こえづらいという課題について、自分たちでできることは自分たちで行い、できないことは行政と一緒に進めて、小委員会でまとめて、市に提案し、復興計画に入れてもらえればと思う。
- 呉の町は細い道路が多いので、道路整備が呉の防災にとって大切な部分であると改めて実感した。
- 4ヶ月以上経っても、まだ災害の爪痕が深く残っている。被災した場所で家が残って住んでいる方は、近所の家がなくなっている中で、今どういう気持ちで生活されているのか、また、家をなくされた方も今後どうしていきたいのか、戻りたいのか、市が直接ヒアリングやアンケートなどで意見を聞いてもらえれば、安心されると思う。
- 安浦を視察したが、テレビで見るよりも広い面で被災されていた。川のそばにある避難所が結果的に残っていたが、避難所が本当に安全なのか、住民には判断がつきにくいので、的確に情報を流していける方法があったらよかったと思う。

13:20

【議題2】

「商工業と観光への被害、影響について」

神津委員、亀山委員、呉商工会議所観光委員会西本委員長、呉飲食組合井口組合長から説明

13:55

【議題3】

「東京大学からの報告」東京大学復興デザイン研究体から説明（資料1）

委員からの主な意見は次のとおり

- 復旧復興まちづくりのイメージの軸やゾーンは、被害の状況やこれまで住んでいた人の生活パターンや空間の使い方を考慮して、細かく丁寧に進めていくことが重要だと思う。

14:15

【議題4】

「呉市復興計画（仮称）構成（案）」事務局から説明（資料2）

委員からの主な意見は次のとおり

- 住まいの再建について、東日本大震災では、みなし仮設や仮設住宅から最終的な住まいが決まるまでで最大6年くらいかかったと聞いている。自分で再建できない高齢者もいるので、主な取組のなかに、住まいの再建に関してのエッセンスを入れているほうがよい。
- 災害に強い安全・安心なまちづくりの中で、ゾーニングとか、まちづくりについて、地区計画で詳しく検討すると思うが、復興計画にもハード整備のベースになるゾーニングとか配置など「防ぐ」というエッセンスを施策体系の中に入れていたほうがよい。
- 河川において、近年では、安価な水位計も開発されているとともに、本日現地で見た砂防のセンサー情報を市役所又は支所でわかるようにするなど、避難行動などのアクションを起こす防災基礎情報を、きちんと収集できる体制が必要であり、それを計画に盛り込む必要がある。
- 発災直後からたくさんのボランティアに来てもらったが、当初は、市役所との連携がうまくいかなかった面もある。今後何かの時のために、呉市とボランティアセンターなどの関係性についても盛り込んでいただきたい。
- 観光面で復興ツーリズムは一つの観光資源になると思うので、ぜひ具体的に実施できるよう検討していただきたい。かつて四川省の地震の被災地に行ったことがあり、災害の記憶を継承している面に加え、子どもたち明るさや希望を持っていることが感じ取れた。被災の程度が大きいほど、復興・希望のインパクトがある。人と人の交流をつなげていくことが重要であると思う。
- 復興とは、いいまちを作り、日々の暮らしを良くし、人々が戻ってくることだと思う。そのために賑わいを作ることは復興の中で重要であると改めて感じた。
- 天応地区を視察したが、天応中学校の被害が大きかった。呉市は小・中一貫教育を他の地区で進めている事例があり、統合する場合には、それを活用することができるのではないかと思った。安浦地区で被災した方が、被災後にとりあえず入居できる場所に入居したが、時間が経ち落ち着いてきたら、子どもの通学等いろいろと考えるところがあったと聞いた。住宅のメドがたったら、それに向けて進んでいきやすくなるのではないかと思う。
- 安浦の市原地区に行くと、ほとんど家が残っていない様子を見て驚いた。大きく被災しているので、大胆な計画を作って、安全に生活することができれば、むしろそこに住みたい方もいるのではないかと思った。

14:40

【その他】

「豪雨災害の被害状況等について」国土交通省から説明（資料3）
事務局から説明（資料4）

「各地区自治会連合等との意見交換の実施について」事務局から説明（資料5）

「スケジュールについて」事務局から説明（資料6）

委員からの主な意見は次のとおり

- 過去の災害，取組を検証し，今回の復旧・復興にプラスになっていければと思う。
- 昭和42年災害やそれ以前の枕崎台風で千人以上の方が亡くなっている。これまでの歴史を振り返り，改善が必要な部分もある。地域で開催するワークショップでも過去の災害の教訓を踏まえながら検討を進めていくことが必要不可欠である。

15:15

【閉会】